

2025年 新課程入試

2025年 新課程入試 共通テスト科目決定！

文科省「共通テスト実施大綱の予告」公表！

旺文社 教育情報センター 2021年8月18日

文科省は7月30日、2025年(2024年度実施)の新課程入試について、「共通テスト実施大綱の予告」を公表した※。すでに入試センターが3月に発表していた科目案を踏襲したもので、現行の共テと比べ、情報を新設、地歴・公民で科目を全面改訂、理科で試験枠を統合など、大幅に変更がなされる。

※同日に公表した「入学者選抜実施要項の見直し予告」については2021年8月6日記事を参照。

●新課程 共テ 出題科目

教科	科目 ※「カッコ」で1科目(1出題科目)	科目選択方法
国語	「国語」	
地理歴史	「地理総合、地理探究」、 「歴史総合、日本史探究」、「歴史総合、世界史探究」	最大2科目選択 (このうち2分野を選択解答)
公民	「公共、倫理」、「公共、政治・経済」	
数学①	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ、数学A」	最大1科目選択
数学②	「数学Ⅱ、数学B、数学C」	
理科	「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」(このうち2分野を選択解答)	最大2科目選択
	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」	
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」	最大1科目選択
情報	「情報Ⅰ」	

今回の新課程共テは、問題作成や試験実施のフーズビリティ(実現可能性)、実施関係者の負担減、受験者の減少に対応した経費削減から、科目数のスリム化が図られた。教科数は「情報」が加わって「6教科⇒7教科」に増。科目数は単純に数えれば「30科目⇒21科目」に削減となるが、科目の数え方が変わった影響もあり、実質的にはそこまで減っていない。たとえば理科基礎は、これまで4科目と数えていたものが、まとめて1科目(1出題科目)と扱われるようになった。

●「指導要領の科目」と「共テ出題科目」

〔現 指導要領〕			〔新 指導要領〕		
教科	科目 〔●＝共テ出題科目(出題範囲) 数字＝標準単位数〕	必修科目	教科	科目 〔●＝共テ出題科目(出題範囲) 数字＝標準単位数〕	必修科目
国語	● 4 国語総合 3 国語表現 2 現代文A 4 現代文B 2 古典A 4 古典B	○2単位まで減可	国語	● 2 現代の国語 ● 2 言語文化 4 論理国語 4 文学国語 4 国語表現 4 古典探究	○ ○
地理 歴史	● 2 世界史A ● 4 世界史B ● 2 日本史A ● 4 日本史B ● 2 地理A ● 4 地理B	┌ ○ └ ┌ ○ └	地理 歴史	● 2 地理総合 ● 3 地理探究 ● 2 歴史総合 ● 3 日本史探究 ● 3 世界史探究	○ ○
公民	● 2 現代社会 ● 2 倫理 ● 2 政治・経済	「現代社会」又は 「倫理」・「政治・経済」	公民	● 2 公共 ● 2 倫理 ● 2 政治・経済	○
数学	● 3 数学Ⅰ ● 4 数学Ⅱ 5 数学Ⅲ ● 2 数学A ● 2 数学B 2 数学活用	○2単位まで減可	数学	● 3 数学Ⅰ ● 4 数学Ⅱ 3 数学Ⅲ ● 2 数学A ● 2 数学B ● 2 数学C	○2単位まで減可
理科	2 科学と人間生活 ● 2 物理基礎 ● 4 物理 ● 2 化学基礎 ● 4 化学 ● 2 生物基礎 ● 4 生物 ● 2 地学基礎 ● 4 地学 1 理科課題研究	┌ 「科学と人間 生活」を含む 2科目 又は 基礎を付した 科目を3科目 └	理科	2 科学と人間生活 ● 2 物理基礎 ● 4 物理 ● 2 化学基礎 ● 4 化学 ● 2 生物基礎 ● 4 生物 ● 2 地学基礎 ● 4 地学	┌ 「科学と人間 生活」を含む 2科目 又は 基礎を付した 科目を3科目 └
外国語	2 コミュニケーション英語基礎 ● 3 コミュニケーション英語Ⅰ ● 4 コミュニケーション英語Ⅱ 4 コミュニケーション英語Ⅲ ● 2 英語表現Ⅰ 4 英語表現Ⅱ 2 英語会話	○2単位まで減可	外国語	● 3 英語コミュニケーションⅠ ● 4 英語コミュニケーションⅡ 4 英語コミュニケーションⅢ ● 2 論理・表現Ⅰ 2 論理・表現Ⅱ 2 論理・表現Ⅲ	○2単位まで減可
情報	2 社会と情報 2 情報の科学	┌ ○ └	情報	● 2 情報Ⅰ 2 情報Ⅱ	○

※共テの出題科目は上記のほか、外国語で英語以外の科目、また現行課程では「倫理、政治・経済」「簿記・会計」「情報関係基礎」がある。

●各教科のポイント

※上表および以下の解説には正式決定となる「共テ実施大綱の予告」の内容のほか、入試センター3月発表の科目案の内容を補足的に含む(以下の解説では「(予定)」と表記)。

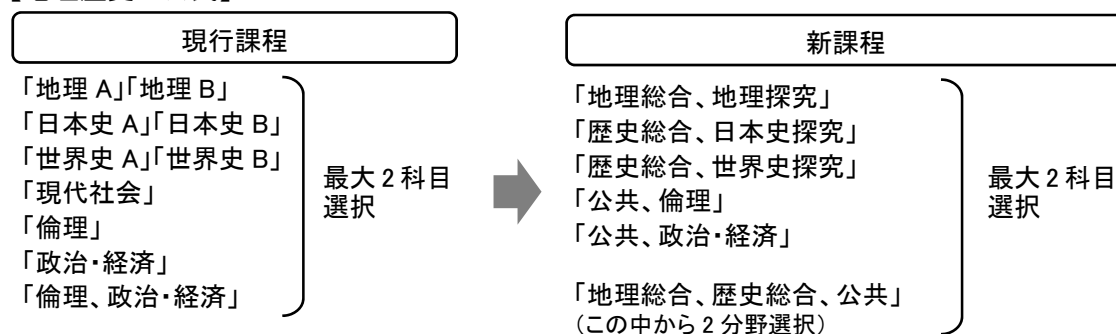
【国語】



指導要領で必修の新科目「現代の国語」と「言語文化」が出題範囲(予定)。「現代の国語」は実社会での言語活動に必要な国語の能力を育成する科目、「言語文化」は日本の言語文化への理解を深める科目で、近代以降の文章も古典も扱う。

出題は現行同様、「近代以降の文章＝論理的な文章、実用的な文章、文学的な文章」、「古典＝古文、漢文」（予定）。

【地理歴史／公民】



指導要領にあわせて共通科目も全面的に変更。共通は指導要領の必修科目（「地理総合」「歴史総合」「公共」）に選択科目が組み合わさった 5 科目と、3 分野の必修科目のみで構成した 1 科目の計 6 科目。ここから最大 2 科目を選択する。

このうち「歴史総合」は日本史と世界史の近現代史の融合分野。そのため「歴史総合、日本史探究」あるいは「歴史総合、世界史探究」であっても両方の要素が入ってくる。指導要領上の標準単位数で見ても、「現行…日本史 B または世界史 B = 4 単位」⇒「新…歴史総合（2 単位）＋日本史探究または世界史探究（3 単位）＝計 5 単位」で負担増となる。

公民もこれまでの「倫理＝2 単位」「政治・経済＝2 単位」に「公共＝2 単位」が加わり、計 4 単位で負担増。なお「公民にも 4 単位相当の試験科目を」ということで 2012 年に新設された「倫理、政治・経済」はなくなった。

「地理総合、歴史総合、公共」は 3 分野のうち 2 分野を選択解答。入試センターによれば、高校の専門学科などの受験生を想定した科目だという（2021 年 4 月 2 日「大学入試のあり方検討会議」より）。

2 科目受験の場合の選択方法はややこしいが、以下の 2 点をおさえておけばよい。ポイントは「地理総合、歴史総合、公共」（必修 3 分野科目）が入るかどうかだ。

■地歴公民 2 科目選択の注意点■

◎「必修 3 分野科目」を含まない場合 ← 大半の受験生がこれになると予想。

⇒ 組み合わせはかなり自由。「公民科目から 2 科目」だけ不可。

【例】「公共、倫理」と「公共、政経」の 2 科目は不可。ほかは OK（地歴科目から 2 科目も OK）。

◎「必修 3 分野科目」を含む場合

⇒ 「3 分野科目」で選択する 2 分野とは違う分野から 1 科目選択。⇒ 3 分野を網羅。

【例】「地総、歴総、公共」で地総、歴総を選択解答するなら、もう 1 科目は「公共、倫理」か「公共、政経」。

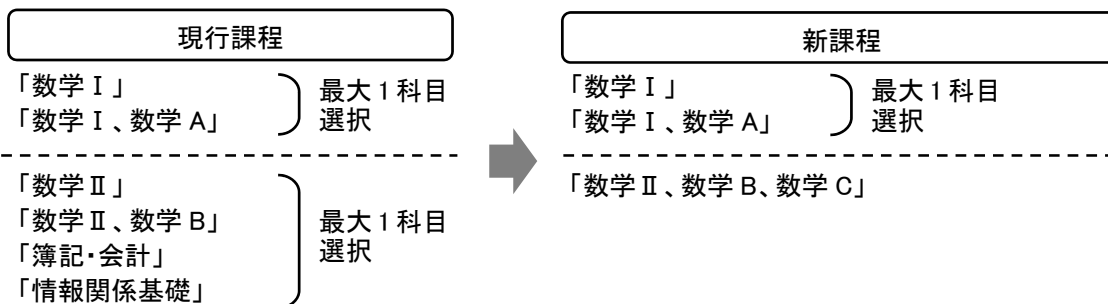
■地歴公民 2科目選択の場合の組み合わせ■

	地総、 地探	歴総、 日探	歴総、 世探	地総、歴総、公共			公共、 倫理	公共、 政経
				地総& 歴総	地総& 公共	歴総& 公共		
地総、 地探		○	○	×	×	○	○	○
歴総、 日探	○		○	×	○	×	○	○
歴総、 世探	○	○		×	○	×	○	○
地総、 歴総、 公共	地総& 歴総	×	×	×			○	○
	地総& 公共	×	○	○			×	×
	歴総& 公共	○	×	×			×	×
公共、 倫理	○	○	○	○	×	×		×
公共、 政経	○	○	○	○	×	×	×	

文科省「共テ実施大綱の予告」より。

なお、「歴史総合、日本史探究」と「歴史総合、世界史探究」の2科目を選んだ場合に「歴史総合」が重なるが、当然、それぞれ異なる問題が出題される。

【数学】

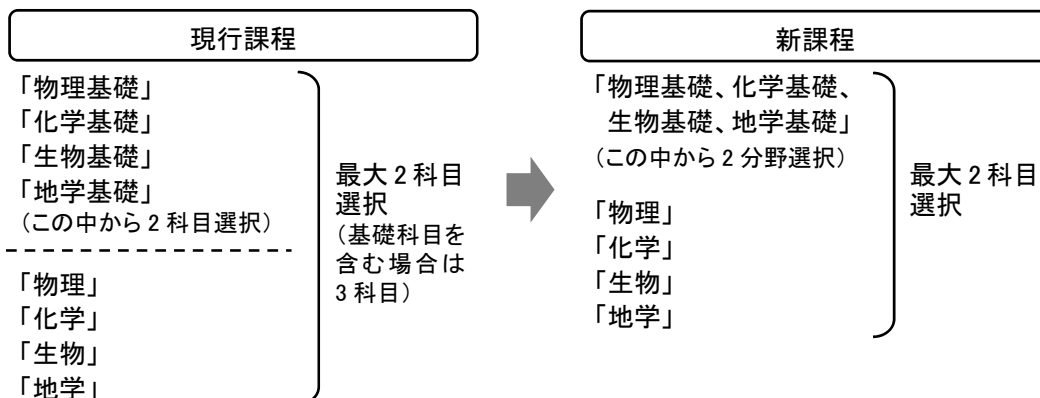


「数学C」が指導要領で復活したことにともない、共テでも登場。「数学A」は、現行は3項目（「場合の数と確率」「整数の性質」「図形の性質」）の出題から2項目を選択解答（つまり大問3問から2問を選択）することになっているが、新課程では2項目の内容（「図形の性質」「場合の数と確率」）をすべて解答する（予定）。

「数学B」は新課程では2項目（「数列」「統計的な推測」）、「数学C」も2項目（「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」）を出題。このうち3項目を選択解答する（現行は「数学B」のみで、「数列」「ベクトル」「確率分布と統計的な推測」の3項目から2項目を選択）。

なお「数学Ⅰ」は共テの単独科目として残ったが、「数学Ⅱ（単独科目）」「簿記・会計」「情報関係基礎」はなくなった。

【理科】

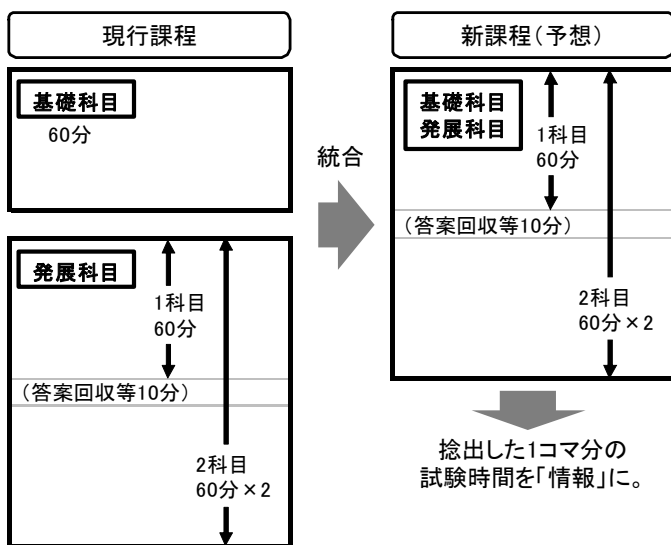


理科は基礎科目の数が変わり、これまで4科目としていたものがまとめて1科目となった(「共テ実施大綱の予告」では「1出題科目」と呼んでいる)。しかし実質的な影響はなく、受験生の科目選択は現行同様に「基礎1科目(2分野)」「発展1科目」「基礎1科目(2分野)+発展1科目」「発展2科目」のいずれかとなる。

なお、現行の試験時間は基礎科目と発展科目が別々に設けられているが、これを統合。左図のようになると予想される。

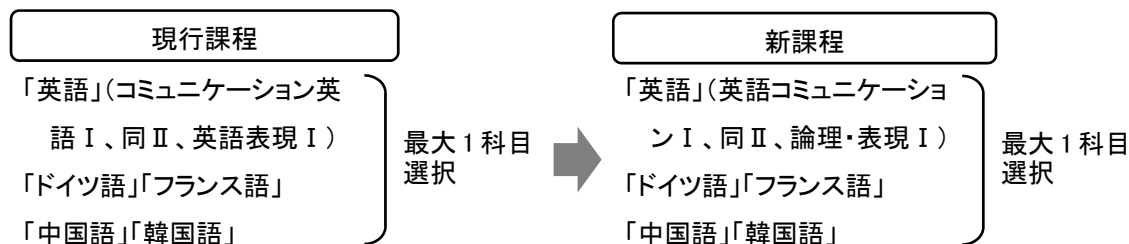
新課程から新教科の「情報」が加わるが、現在、共テ2日目の終了時間は17時50分。「情報」の時間を捻出するには、確かに理科の試験枠を統合するしか手はなかりう。

■ 共テ「理科」の試験時間 ■



※新課程の試験時間は未定。旺文社の予想。

【外国語】



英語は「英語コミュニケーションⅠ」「同Ⅱ」「論理・表現Ⅰ」が出題範囲（予定）。試験形式は現行同様、紙の試験とICプレイヤーを用いて行われる。

【情報】



新課程共テからの新設教科。3月に入試センターが発表した科目案では科目名は「情報」だったが（出題範囲は「情報Ⅰ」）、結局「情報Ⅰ」になった。

「情報Ⅰ」の学習内容にはプログラミングやデータ活用などの実践的内容も含まれている。当初は政府からCBTで実施する案（2018年6月「未来投資戦略2018」など）が出ていたが見送りとなり、PBTでの実施となった。

●経過措置

経過措置は既卒生向けに旧課程の問題を用意する措置。基本的に新課程入試の初年度に、旧課程と新課程で学習内容に大きな違いがある科目で実施される（かつては2年間措置が取られた年も）。1科目まるまる旧課程用の試験が用意されることもあれば、大問レベルで対応することもある（既卒生のみが選択可能）。今回も経過措置が取られるが、具体的な内容については今後の発表となる。

●試作問題

新設科目や大きな変更がある科目については、試作問題が公表されるのかも注目だ。入試センターでは3月に科目案を発表した際、あわせて「地理総合」「歴史総合」「公共」「情報」のサンプル問題を公表した。ただしこの問題はあくまでイメージで、教科書と照合したものではないことや（教科書の検定中に作成）、実際の試験時間を配慮したものではないことなどを入試センター自身が強調している。今回の「共テ実施大綱の予告」では試作問題については一切触れられていないが、今後、改めて公表される可能性はあるだろう。

●試験時間

各教科の試験時間は今年の秋には発表される模様だ。

●国公立大の入試科目はどうなる

今回、「共テ実施大綱の予告」と「入学者選抜実施要項の見直し予告」が発表されたことを受け、これから各大学は2025年入試を約1年かけて検討し、いわゆる「2年前予告」を公表していく（実際は早く公表する大学、逆に2年前を割ってしまう大学、小出しで公表していく大学がある）。

ここでもっとも気になるのが国公立大の共テ科目、特に「情報」の扱いだ。国立大についてはまず国大協が方針を出し、それを踏まえて各国立大が予告を出す流れになろう。「国大協が「情報」を課す方針を出せば ⇒ 多くの国立大で課す ⇒ 公立大もある程度歩調を合わせる ⇒ 必然的に多くの受験生が共テで「情報」を受ける」ことになる。逆に原則必須にしなければ、「情報」の受験者は非常に少なくなる可能性がある。

「情報」は高校現場では都道府県により、臨時免許状や免許外教科担任の教員が指導にあっているケースが多く、指導内容にもバラつきがあると聞く。その意味で公平な学習環境が整えられているとは言い難い。2021年の入試改革では地域格差、経済格差が大きく問題視された。国大協には高校現場の実態を踏まえた慎重な判断が求められる。

●受験生の負担増の問題

指導要領上の標準単位数で見た場合、新課程では次のように負担増となる。

■共テ科目と指導要領上の標準単位数■

仮に新課程共テで以下の「6(7)教科8科目」を選択する場合…

教科	文系型				→	理系型			
	現行課程		新課程			現行課程		新課程	
	共テ科目	単位数	共テ科目	単位数		共テ科目	単位数	共テ科目	単位数
国語	国語	4	国語	4	国語	4	国語	4	
地歴	日本史B	4	歴総、日探	5	地理B	4	地総、地探	5	
公民	現社	2	公共、政経	4					
数学	数学ⅠA	5	数学ⅠA	5	数学ⅠA	5	数学ⅠA	5	
	数学ⅡB	6	数学ⅡBC	8	数学ⅡB	6	数学ⅡBC	8	
理科	基礎(2科目)		4	基礎(2分野)	4	物理	4	物理	4
						化学	4	化学	4
外国語	英語	9	英語	9	英語	9	英語	9	
情報			情報Ⅰ	2			情報Ⅰ	2	
合計	合計	34	合計	41	合計	36	合計	41	

※国公立大の基本的な入試教科が新課程でどうなるのかは現状不明。上表は「情報」を含めて仮のもの。
 ※共テの数学は科目により項目を選択解答するが、上表は標準単位数をそのまま入れてある。

上表は典型的な国公立大文系型「国+地公(2科目)+数(2科目)+理+外」、同理系型「国+地公+数(2科目)+理(2科目)+外」に、さらにそれぞれ「情報」が課されると仮定したもの。

このように共テが負担増となるだけではない。受験生には英語の外部検定と記述式への対応ものしかかってくる(主体性の評価は低迷か)。この2つがどれだけ2025年入試で拡大するのかはまだ見えないが、実施する大学が少なくとも現状より減ることはありえない。外部検定は急激に拡大する可能性もある(文科省「大学入試のあり方検討会議」で提言されたインセンティブ次第)。

「歴史総合」も、「公共」も、「数学C」も、「情報Ⅰ」も、外部検定も、記述式も、1つひとつを見たときに今の子供たちに必要なのはわかる。しかし全体を見渡したとき、受験生の負担は非常に大きい。

(2021.08 石井)